

★ 8月最後の週末に『通院介護支援事業交流会』 ★

昨年12月に第1回の「通院介護支援事業交流会」を開催しましたが、今年度は8月になりました。夏の盛りに汗を流しながら、熱く語り合いましょう(^ ^)。開催要綱を、近日中に県組織に送付いたします。県組織で取りまとめてお申し込み下さい。

第2回通院介護支援事業交流会(案)

日 時／8月25日(土)14:00～18:00

8月26日(日) 9:00～12:00

会 場／品川プリンスホテル 12階「彦根」

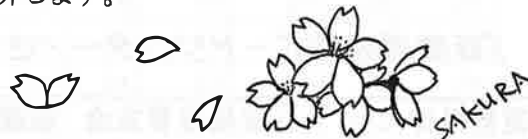
対象者／送迎実施団体の事務局・運営担当者、都道府県組織または地域腎友会の役員

参加費／宿泊費・夕食の実費程度を予定

★ 団体紹介～事務局にインタビュー～ ★

2月1日に、「板橋通院サポートセンター・さくらの会」を訪問しました。いつもの団体紹介とは少し違いますが、事務局の高野さんから色々なお話を伺いましたのでご紹介します。

板橋通院サポートセンター・さくらの会



○ (事務所の壁に掛けてある)送迎カレンダーは、びっしり書き込んでありますね。

高野:「会」ができた頃はこのボードで十分だと思って買ったんですが、送迎回数が増えるにつれて、段々一日の枠に書き込む字が細くなって行って、今ではこんなに…。

○ 1人のボランティアさんが、同時に2人の患者さんを送迎しているケースもあるんですね。

高野:ボランティアさんが少ないですし、病院が同じだとそうになってしまうこともあります。それで、最近利用者さんのほうが気を使っているという状況もあるみたいです。利用者さんが透析スタッフに「〇〇さんと私は、同じボランティアさんが迎えに来て車で送ってくれるから、2人とも早い時間に終わるように針刺しの時間を合わせてほしい」と頼むようなことが。

透析通院は「定期的で頻回」

○ ところで、先日、「世田谷ミニキャブ区民の会」の方が、「今までは、透析通院はあまり積極的に受け入れていなかったけれども、透析通院のニーズが高まっていることもあり、どう対応していこうか検討している。透析患者固有のニーズや実態を聞かせてもらいたい」と来局されました。高野さんはそのあたりをどう考えますか？

高野:板橋区には、既に非営利の移送サービス団体が4ヶ所もあったのに、なぜ「さくらの会」ができたか、それは「定期的で頻回」な透析通院を受ける団体が少ないということと、透析患者にとっては、「高額で利用しにくい」という事情があったからです。だから、「さくらの会」は、利用目的を「通院」に絞り、利用寄付を安くしました。

○ 「自由な移動」をサポートするという目的を持って活動している団体は、「透析通院の送迎を受ける

と、それに縛られて他の利用希望に応えられないのでは」「一度決めたら必ず送迎しなくては行けないのではないか」と不安があるようです。

高野:「さくらの会」だって全てのニーズに応えているわけではありません。週3回往復利用できている人は、たまたまです。ボランティア事業の限界ですね。「都合が悪くなることだってあるからそういうときは、タクシーを利用して下さい」と言います。そういう事情を理解して「1回でも2回でも助かる」と言ってくれる人でないと利用は無理ですよ。

マイカーボランティアの良さ

○ 利用寄付が安いことについてですが、車両を持っている団体だと維持費がかかるし、事務所もマンションなど借りていれば、やはり利用者の費用は高くならざるを得ないですよ。

高野:そうですね。「さくらの会」も、医師のご厚意で殆ど無料で事務所を借りてますから。このたび、日本財団からリフト車をいただくことになったので、その車両はマイカーより少し高い値段設定になると思いますが、基本的にはマイカーボランティアです。

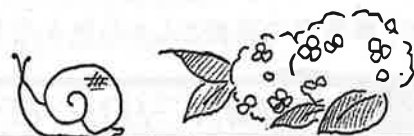
○ リフト車を持つことで、「会」の幅が広がったり、ボランティアさんの意識が高まったりすると思うので、費用の問題がなければいいことだと思います。

高野:車いすを使っている方で、「さくらの会」を利用したいという人が既にいるので、リフト車への期待もあるんだなと感じましたね。新年度から「板橋区移動サービスネットワーク」という非営利団体のネットワークにも所属します。日曜日は透析がないので、透析通院以外の利用希望も受ける予定です。

○ マイカーがいい理由は他にもありますか？

高野:透析の場合、同じ時間帯に通院時間が集中します。「さくらの会」は16～17施設に送迎してるので、同時に送るにはマイカーが適していると思います。団体車両で外出支援をしている団体が、透析の通院送迎をするんだったら、通院送迎の部分だけ別個にマイカーボランティアを募るほうがいいんじゃないでしょうか。

『板橋通院サポートセンター・さくらの会』の概要



運営母体	板橋区腎友会、板橋区難病連	1998年7月発足
サービス内容	マイカーボランティアによる要介護透析患者等の通院支援(ドア・ツー・ドア)	
送迎対象地域	板橋区及びその周辺	
利用対象者	板橋区在住、自動車でなければ通院困難な透析患者等難病患者	
利用者負担	年会費／500円、運行寄付／1回につき300円	
事務局スタッフ	コーディネーター1名、事務局スタッフ2名、他役員など	
事務所	訪問看護ステーションの一室	
車両	マイカー	
保険	ボランティア保険、マイカーの任意保険	
財源	利用会費、賛助会費、運行寄付、助成金、寄付金ほか	
支出(経費)	人件費、会議費、ボランティア保険料、ガソリン代(ボラへ)、通信・印刷費、車両維持積立金ほか	
行事(研修会等)	総会、ボランティア交流会、会報「板腎・さくら通信」発行(区腎友会報兼ねる)	
協力団体	板橋区難病連	
経緯・特徴	当会は、板橋区腎友会を母体として設立されました。マイカーボランティアがドア・ツー・ドアで送迎。 2001年4月より福祉車両の運行も開始(福祉タクシー券適用)。ボランティアは、町内会回覧版を見て応募の方が2/3近くを占めています。	

患者さんの状態は人によって様々

○ マイカーで送迎している様子を見て、「自分で車に乗り込める人を送る必要があるのか」という声が聞かれます。

高野: 基本的には、自力でバスや電車などの公共交通で通えない人を送迎しています。視力障害を持っている人や心臓疾患を持っている人は、外からはよく見えません。元気そうに見えていても、翌週心臓発作で亡くなるケースもありますから、状態は人それぞれだと思います。「タクシーで通えばよさそう」という場合でも、朝など決まった時間にタクシーを拾うのはかなり大変です。

もちろん、「さくらの会」が本当に必要な人に利用されているかという点、そうでないケースもあると思います。他にも困っている人が沢山いるだろうけど、応えきれていないという心苦しさは常にあります。

○ 体調の面での注意点はありますか？ 透析患者特有の症状や送迎中の急変などは…。

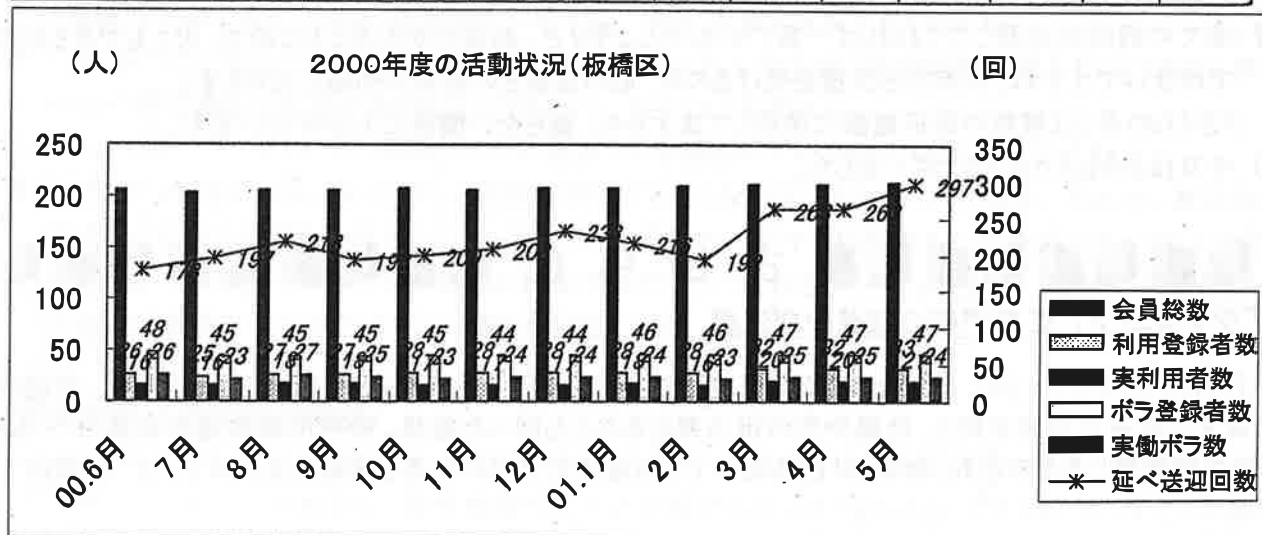
高野: 「さくらの会」は、最初から透析患者さんばかりを乗せているので「透析患者だから特別どう」ということを意識しないのかも。出血や失禁といったトラブルは今までありません。患者さんによって状態は様々ですし、具合が悪くなったときは、透析を受けている病院に引き返すことにしています。引き返せる距離です。

○ 範囲が狭いほうがいいということでしょうか？

高野: そうですね。範囲が狭ければ具合が悪くなったときに引き返せるし、範囲が広いとボランティアさんの負担が大きくなるから。そのためにも、マイカーボランティアがいいと思います。マイカーなら、自宅から利用者宅と病院までしか移動せずに済みますから。

『さくらの会』の活動実績

	00/6	7月	8月	9月	10月	11月	12月	01/1	2月	3月	4月	5月
会員総数	206	205	207	207	208	207	208	209	211	212	212	215
利用登録者数	26	25	27	27	28	28	28	28	28	32	32	33
実利用者数	16	16	18	18	17	17	17	18	16	20	20	21
ボラ登録者数	48	45	45	45	45	44	44	46	46	47	47	47
実働ボラ数	26	23	27	25	23	24	24	24	23	25	25	24
延べ送迎回数	178	197	218	193	200	208	233	216	192	263	263	297



利用者だって難しい

○ でも、遠くの施設に通っている人もいますよね。通院が大変でも近くの施設に転院したくないという透析患者さんが意外と多いように思います。

高野: お世話になっている先生に義理立てしてというものもあるし、だからこそ何かあったときに安心だという気持ちもあると思います。ただ、通院があまりに大変なら、転院も考えた方がいいのではないかと思います。

います。「さくらの会」にもそういう方がいますが、平日の朝は道路があまりに混むので、ボランティアさんのなり手が見つからない現状です。

- 利用者の声はどうか？ みなさん「ありがたい」という感じ？

高野：それも色々です。気持ちよく利用してくれる患者さんもいれば、文句ばかり言っている患者さんもいます。後者は、ボランティアさんが替わってもまた文句を言う、甘えもあるんでしょうけどね。

- ボランティアさんは友達でもないタクシーでもない。どんな風に利用すればいいのか、接すればいいのか、いまいちピンと来ないんです。私だったら、利用しないかもしれません。

高野：確かに、利用する側の気持ちってあまり触れられませんが、実際「感謝の気持ちをどう伝えればいいのか分からない」というのはあるみたいですよ。だから、贈り物を持ってきたりします。でも、それはしたいようにしてもらってます。最初はダメだと言うんですが、それで気が済むのならって。

関係機関とのおつきあいも不可欠

- 一般の非営利移送サービス団体が、透析の通院送迎を始めるときには、まず地域の病院に挨拶して、関係づくりをしておいた方がいいんでしょうか？ 透析の患者の特徴を知りたいという場合でも、医療スタッフにボランティア研修などもしてもらえるし。

高野：うちは腎友会が中心になっているので、話を通しやすいですけど、一般の団体だと、その辺はちょっと難しいかもしれませんね。

- 利用申込みのルートとしては、どこから来るのが多いですか？ 介護保険のヘルパーが付き添っている患者さんもいますよね。ケアマネさんからの相談は？

高野：病院のワーカーさん・福祉事務所・区役所・在宅介護支援センターから紹介されて、家族が申し込んできることが多いですね。ワーカーさんから利用の相談をされることもあります。最近はケアマネさんからの紹介が増えています。

- 送迎先の施設16～17ヶ所で、ワーカーさんがいるところはどれくらいありますか？

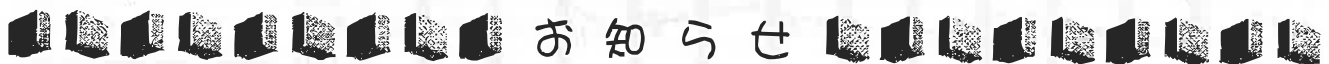
高野：『センター病院のワーカーが系列病院の患者も看ている』のを『いる』ということにすれば、4ヶ所を除いて、みんないます。病院のワーカーさんとの関係は大事にしています。

- 病院送迎を考えると、「病院が送迎してくれればいいのに」「それが無理なら、いくつかの病院が非営利の送迎団体を支援するとか」という声も聞かれますが。

高野：全ての病院が送迎してくれれば一番いいんでしょうけど、お金のかかることなので、どこもできるわけではないですよ。病院から支援を受けるのも、他の施設との関係が問題になります。

「さくらの会」は複数の透析施設に送迎してますから、偏らない関係に心がけています。

- 今日はどうもありがとうございました。



お知らせ

「ジャスミン」に神戸市の助成金が決定

神戸市の「ジャスミン」が、2001年度から市の助成金(200万円/年)を受けることになりました。送迎活動に対する助成は前例が無く、社協や市の担当課をあちこち回った結果、神戸市難病連の事業の一つとして助成が実現したそうです。次号の「団体紹介」で助成決定までの経過を掲載しますので、乞うご期待！

神奈川県大和市で「山桜会」発足、福祉タクシー券適用で

NPO大和市腎友会が通院送迎「山桜会」を立ち上げ、6月1日から活動を開始しました。大和市の協力を得て“福祉タクシー券を利用できる団体として”立ち上げた経緯があり、“利用者も「会」も嬉しい”方法が実現しました。マイカーに福祉タクシー券が適用されるのは、大変珍しいケースです。大和市はタクシー券が年間24000円分(100円×30枚、500円×42枚)なので、今後は交付枚数の増加が望まれます。

★長崎県腎協の「ほほえみ」が社会福祉・医療事業団の助成金で作成したリーフレットを同封しました。